

第一回 絵入本ワークシヨツプ

二〇〇六年九月十八日 於實踐女子大

千葉大学 高木 元

◆前二説中で一編各圖寫ハ既成
上みほん (三編) (4)

◆江戸小説中で一番格調高い読本（『読む本』）

江戸読本

繪本加々見山列女功（享和三）

敵討本
待山話（享和四）

奇話繪本東嫩錦（文化二）

繡像復讐石言遺響（文化二

櫻姫全傳 曙草紙（文化二）

奇譚繪本璧落穂（文化三・五）

上方の〈絵本もの〉

〔絵本忠臣蔵〕、〔寛政十二〕、〔絵本忠臣蔵〕

卷之三

清月譜

「俊德麻呂謡曲演義」（文化五）

「かたきうちくわいだん久智埜石文」（文化五）

翻刻本の叢書名

絵本種史小説 絵入文庫

絵本阿佐倉日記、絵本愛敬歌、絵本草牙草紙、絵本伊賀越孝勇伝、絵本一休譚、絵本宇多源氏、絵本浦島一代記、絵本忍仁記、絵本黄鳥墳、絵本加々見山列女功、絵本花雪吹、絵本鎌倉史記、絵本鎌倉新話、絵本漢楚軍談、絵本吉見英雄録、絵本奇縁伝、絵本奇談喫茶物語、絵本亀山話、絵本義経記椎草、絵本義勇伝、絵本喫茶濫觴記、絵本俠夫伝、絵本玉藻譚、絵本松譚、絵本金花譚、絵本金石譚、絵本金毘羅神靈記、絵本熊谷一代記、絵本月景物語、絵本質女鑑、絵本頸勇錄、絵本胡蝶夢、絵本吳越軍談、絵本孝姫伝、絵本孝勇譚、絵本更科草紙、絵本甲越軍記、絵本荒川里男伝、絵本高嶺の復讐、絵本合邦辻、絵本国姓忠義伝、絵本今調課、絵本佐野報義錄、絵本在原草紙、絵本雜兵忠孝伝、絵本皿山奇談、絵本三韓軍記、絵本三国志、絵本三国妖婦伝、絵本三山岬紙、絵本参考小栗美記、絵本小夜雨、絵本松井美記、絵本信長記、絵本身延山利生記、絵本菅原実記、絵本西遊全伝、絵本昔話松虫墳、絵本石山軍記、絵本雪鏡談、絵本浅草靈験記、絵本曾我物語、絵本双足思錄、絵本霜の花、絵本孫子童觀抄、絵本太閤記、絵本大江山物語、絵本大内軍記、絵本太郎夢物語、絵本忠孝比玉伝、絵本忠孝美善録、絵本忠臣蔵、絵本朝鮮軍記、絵本朝鮮征伐記、絵本香亭、絵本通俗三国志、絵本孝感伝、絵本敵討侍山話、絵本天下茶屋、絵本東嫩錦、絵本徳行談、絵本奈古曾閔、絵本補公記、絵本二島英勇記、絵本日吉丸、絵本梅花春水、絵本白狐伝、絵本薄葉、絵本箱根山靈応伝、絵本堯功伝、絵本彦山權現靈驗記、絵本不知火草紙、絵本復仇英雄錄前編、絵本復讐放下僧、絵本平景実記、絵本平八一代記、絵本寃慶異伝、絵本報仇安達原、絵本報仇誓摺、

絵本芳野の雪、絵本豊臣熟功記、絵本豊臣琉球軍記、絵本堀川清談、絵本万力奇談、絵本名月夜話、絵本夜船譚、絵本祐天記、絵本輪廻物語、絵本烈戦功記、絵本浪華男、絵本後画草紙、絵本和田軍記、絵本壁落穂、絵本簞草紙。一一六／八九〇

・草双紙との差別化

「読本は上菓子にて草双紙は駄菓子」（三馬『昔唄花街始』跋）

絵（解き）本は低俗……近代的な文学観

〈メディア変遷史〉 板本から銅版本、活版本へ

◆江戸読本の定型

濱田啓介「近世小説本の形態的完成について」（『近世文藝』七十五、二〇〇一年一月）

前期読本 唐本の影響 口絵 『絵本太閤記』『絵本忠臣蔵』

江戸読本 文化三年以降 見返・口絵・挿絵完備型の完成

- ・半紙本 五巻五冊（三巻二冊）、中本型読本の存在（地本）
 - ・表紙や見返に凝らされた意匠（浮出文様）……商品化
 - ・口絵や目録等の飾り枠に凝らされた趣向（彩色重刷）
 - ・序や跋、凡例や再識などに縷々考証を記す……前期読本は議論
- 〔例〕『俊徳麻呂謡曲演義』（振驚亭作、北馬画、文化五年、桂林堂板）
- 表紙、見返、序、総目録、口絵、按（再識）、本文、挿絵、附言、広告、刊記。

参考 改修改題後印本

◆京伝の工夫（凝らされた意匠）

『雙蝶記』（京伝作、豊国画、文化十年、河太・西興板）

土田悠『『雙蝶記』試論』（千葉大学日本文化論叢』七、二〇〇六年六月）

王折王思義編『三才圖會』（明代）所載の画像利用などを指摘

口ノ五表「輕大臣灯台鬼之図」。2は良くある硯の形であるが珍しい形の7、10、

12も『三才圖會』に同じ形が載っている。そして1の壺は『三才圖會』の水中丞、13の龜のような物は硯滴であると考えられる。どちらも硯に水を注ぐ用途の道具である。

1の壺の形は丸く変化しているものの口の周りの丸の模様、飛び出している細長い棒まで細かく描かれている。この二つは独特な形であり、『三才図会』の利用を裏付けるものだと考えられる。ちなみに左奥の台が香几と酷似しており、小道具の図像にも『三才図会』を利用したようである。

口ノ七表「浪人幻竹右衛門、奴僕露助」（前作『本朝醉蓄提全伝』巻之一、口ノ七に使われている）。ほぼ全て楽器であることが分かった。また、現在これらの楽器類は中国ではほとんど廃れてしまい、朝鮮雅楽に同じの形の楽器が伝わっているのみである。aは土笛、bは箏、瑟とも似ているが、両端が折れている。cは馨。d eは未詳。fは笙。口にくわえる部分が付けられているから中国の笙である。gは鐘で鏞と鏞がある。描かれている模様から鏞を参考にしたか。hは琴。形から判断すると大琴。iは柷。jは敔。jは白虎の絵を参考にしたか。kは應鼓。lは管。笛の一種である。

〔補〕『俊徳麻呂謡曲演義』口絵も同様の意匠。

◆馬琴「一ード (decoded?)

読本の口絵挿絵を『読む』……無意味に見える挿画に文脈が存す

表紙見返に施された意匠 犬張子と太鼓、伝書鳩と伝書犬

「靈鵠黃耳書信不憇」鳩は『開元天寶遺事』「張九齡の飛奴」に見える「靈鵠」（肇輯の序文に既出）、犬は『述異記』の陸機の犬の黄耳（『事文類聚』後集卷之四十）。雁・鳩・犬には手紙からの連想が働いている。また、「雁が飛へば石龜もじだんだ」「雁が起てば鳩も起つ」という諺があり「石龜屋次團太」に関連する（播本眞一氏）。

○古那屋の段の主な登場人物（名詮自性）

小文吾

古那屋文五兵衛

沼蘭

山林房八

戸山妙真

犬塚信乃
犬飼現八

冨地晃裕絵画館 (<http://www.k3.ne.jp/~ominoe>)

長澤瑠里「授業報告」(千葉大学文学部日本文化学科四年)

伊藤敦子『狂歌と着物の模様のメッセージ』(朱鳥社、1100五)

◆上方絵本読みの型

- ・一冊目に「総目録」を備える。
 - ・目録の書式が実録風「（）話（事）」
 - ・古典の絵本化（「絵本忠臣蔵」）
 - ・扉を持ち、巻頭が裏丁から始まるものがある。
 - ・図会物の存在（「源平盛衰記図会」）
- #### ◆絵入本としての読み
- ・本文テキストが読めれば良いというものではない。袋、表紙、見返、序跋、目録、口絵、挿絵、広告、刊記、後ろ表紙まで、使われている全ての文字列と画像を読む対象といふなければならない。
 - ・江戸読みと上方読みを差別化するもの。著者・画工・板元、そして《読者》・草双紙との本質的な相違とは何か。
 - ・歌舞伎に関する知識（常識）を前提とする絵画。